



源註拾遺卷第二目錄



開雅文庫

桑原文庫



源註拾遺卷第二目錄
一、
二、
三、
四、
五、
六、

一 あいねのうらなはるしそふはたのいよふかしの
細流のよもひさしのせいのうらなはるしそふはたの
とふのふたふた細流のよもひさしのせいのうらなはるし
にのよもひさしのせいのうらなはるしそふはたの
るふたふたのよもひさしのせいのうらなはるしそふはたの
一 いのよもひさしのせいのうらなはるしそふはたの
ふたふたのよもひさしのせいのうらなはるしそふはたの
ふたふたのよもひさしのせいのうらなはるしそふはたの
大氣のよもひさしのせいのうらなはるしそふはたの
河のよもひさしのせいのうらなはるしそふはたの

一 ねたのよもひさしのせいのうらなはるしそふはたの
非敬明德惟馨のうらなはるしそふはたの
又五巻の初に記す
ふたふたのよもひさしのせいのうらなはるしそふはたの
行ひつらつらにるしそふはたの
遊仙窟并のふたふたのよもひさしのせいのうらなはるしそふはたの
むらさきのよもひさしのせいのうらなはるしそふはたの
かきつらつらにるしそふはたの
一 河原のよもひさしのせいのうらなはるしそふはたの
廿二被^{五巻}のよもひさしのせいのうらなはるしそふはたの

一 いたし... 助及... 万葉... 万葉... 万葉...

一 万葉... 万葉... 万葉... 万葉... 万葉...

一 万葉... 万葉... 万葉... 万葉... 万葉...

一 万葉... 万葉... 万葉... 万葉... 万葉...

後拾遺

志... 志... 志... 志... 志...

新古今

勢... 勢... 勢... 勢... 勢...

日

勢... 勢... 勢... 勢... 勢...

後拾遺

勢... 勢... 勢... 勢... 勢...

勢... 勢... 勢... 勢... 勢...

勢... 勢... 勢... 勢... 勢...

大和... 大和... 大和...

生行

他

同

山

新

道

勢

勢

勢

勢

一 寺に於ては...
○ 公の東に...
とてと別様...
一 公の東に...
○ 公の東に...

一 公の東に...
○ 公の東に...
一 公の東に...
○ 公の東に...
一 公の東に...
○ 公の東に...
一 公の東に...
○ 公の東に...
一 公の東に...
○ 公の東に...

一 公の東に...
○ 公の東に...
一 公の東に...
○ 公の東に...
一 公の東に...
○ 公の東に...
一 公の東に...
○ 公の東に...
一 公の東に...
○ 公の東に...

^凡梳梳と文選よてもくしと和名抄云唐韻云梳梳
種後二音和名曾波乃梳木名也又四方本也凡しとれ物まはく也凡
 ともくしとれ物まはく也凡ともくしとれ物まはく也凡
 ともくしとれ物まはく也凡ともくしとれ物まはく也凡
 ともくしとれ物まはく也凡ともくしとれ物まはく也凡
 ともくしとれ物まはく也凡ともくしとれ物まはく也凡
 ともくしとれ物まはく也凡ともくしとれ物まはく也凡
 ともくしとれ物まはく也凡ともくしとれ物まはく也凡
 ともくしとれ物まはく也凡ともくしとれ物まはく也凡
 ともくしとれ物まはく也凡ともくしとれ物まはく也凡

一 ^卯 髪 卯歟 〇の果非二字也 凡を

〇と和名集云唐韻云髮 計及和名 毛止々利 髮也四声字花云
音還和名美豆良 屈髮也

髪 一云訓上同 屈髮也

一 ^{トハ} 何 雅 果純 〇の果非日本紀よ

雅乃字 神代紀ワク 〇の果非日本紀よ

所雅部明記

帚

一 ^{ニハ} 正 凡 〇の果非日本紀 最奇 凡集 〇の果非日本紀

〇の果非日本紀 〇の果非日本紀 〇の果非日本紀

〇の果非日本紀 〇の果非日本紀 〇の果非日本紀

〇の果非日本紀 〇の果非日本紀 〇の果非日本紀

〇の果非日本紀 〇の果非日本紀 〇の果非日本紀

一 内 〇の果非日本紀 儀軌 〇の果非日本紀 秘儀の徳の中

〇の果非日本紀 〇の果非日本紀 〇の果非日本紀

〇の果非日本紀 〇の果非日本紀 〇の果非日本紀

〇の果非日本紀 〇の果非日本紀 〇の果非日本紀

〇の果非日本紀 〇の果非日本紀 〇の果非日本紀

〇の果非日本紀 〇の果非日本紀 〇の果非日本紀

は... 秋の走れ敷... 大なる... 木の... 乃...
フナ...

各寺... 秋... 中... 約... あ...
拾遺... 早九月... 山野宮...

人... 比...
明日香米女

一... 比... 比... 比... 比... 比... 比... 比... 比... 比... 比...

一... 比... 比... 比... 比... 比... 比... 比... 比... 比... 比...

又... 比... 比... 比... 比... 比... 比... 比... 比... 比... 比... 比...

ともいふはさかたのりからいふは後分り得相重
無一ツけりともいふはさかたのりからいふは後分り得相重
影の音はさかたのりからいふは後分り得相重

一 一きりつゝいふはさかたのりからいふは後分り得相重

一 一きりつゝいふはさかたのりからいふは後分り得相重
一 一きりつゝいふはさかたのりからいふは後分り得相重
一 一きりつゝいふはさかたのりからいふは後分り得相重

一 一きりつゝいふはさかたのりからいふは後分り得相重
一 一きりつゝいふはさかたのりからいふは後分り得相重
一 一きりつゝいふはさかたのりからいふは後分り得相重

傳は教々をいふはさかたのりからいふは後分り得相重

一 一きりつゝいふはさかたのりからいふは後分り得相重
火影とらるは日本紀より一万余年ナリ

火影とらるは日本紀より一万余年ナリ

火影とらるは日本紀より一万余年ナリ

一 一きりつゝいふはさかたのりからいふは後分り得相重

火影とらるは日本紀より一万余年ナリ

火影とらるは日本紀より一万余年ナリ

火影とらるは日本紀より一万余年ナリ

一 一きりつゝいふはさかたのりからいふは後分り得相重

火影とらるは日本紀より一万余年ナリ

火影とらるは日本紀より一万余年ナリ

彼方ニ造置有故縁^ハ聞^キ而^{シテ}雖^モ不知^ル新喪^ノ之^レ如^ク毛哭^ハ泣^キ泣^キ鶴^ノ
鴨^ノ故^レ及^テ縁^ノとて眼^目とらひ清^浄とらひとて一^ニ我^ノを

ゆきとせむとてあつてのゆきもあつてゆきも
いひて文章もゆきもあつてゆきもあつてゆきも
ゆきもあつてゆきもあつてゆきもあつてゆきも

一 考^ル此^レ佳^ク出^ル後^漢書^皇后^記
言^ハ在^マ夫^レ之^レ後^故以^テ女^ヲ謂^フ後^達○^ク東^漢故^ハ以^テ下^レ此^レ古^字を
か^レ後^漢書^を考^ルとてゆきとらひとてゆきとらひとて本^朝文^粹

一 貴^人之^サ御^之我^也にゆきとてゆきとらひとてゆきとらひとて
身^一慰^ム也^男女^詩苦^徒跣^彈琴^者閨^巷林^并御^俗謂^貴貴^女
ゆきとらひとてゆきとらひとてゆきとらひとてゆきとらひとて

一 の武^義もゆきとらひとてゆきとらひとてゆきとらひとて
一 古^出 遊^仙座[○] 東^遊仙^座 古^出の
二^字如^ク一^万葉^身也^家打^百年^ノ老^古也^と今^半年^も
東^にとてゆきとらひとてゆきとらひとてゆきとらひとて

一 入^ル竹^老古^出比^付とてゆきとらひとてゆきとらひとて
ゆきとらひとてゆきとらひとてゆきとらひとてゆきとらひとて

一 一^と入^ルた^いひとてゆきとらひとてゆきとらひとてゆきとらひとて
ゆきとらひとてゆきとらひとてゆきとらひとてゆきとらひとて

一 一^と入^ルた^いひとてゆきとらひとてゆきとらひとてゆきとらひとて
ゆきとらひとてゆきとらひとてゆきとらひとてゆきとらひとて

一 一^と入^ルた^いひとてゆきとらひとてゆきとらひとてゆきとらひとて
ゆきとらひとてゆきとらひとてゆきとらひとてゆきとらひとて

○今果河平世カ... 彼ら... 勢... 勢...

○今果 有意 日本紀第廿八天武能上

○今果... 彼名... 勢... 勢... 勢... 勢...

一 今案りて
正しきも
ていふも
ハリスル
首の音
のまじり
ていふ
ト
一 今案りて
正しきも
ていふも
ハリスル
首の音
のまじり
ていふ
ト
一 今案りて
正しきも
ていふも
ハリスル
首の音
のまじり
ていふ
ト
一 今案りて
正しきも
ていふも
ハリスル
首の音
のまじり
ていふ
ト

一 今案りて
正しきも
ていふも
ハリスル
首の音
のまじり
ていふ
ト
一 今案りて
正しきも
ていふも
ハリスル
首の音
のまじり
ていふ
ト
一 今案りて
正しきも
ていふも
ハリスル
首の音
のまじり
ていふ
ト
一 今案りて
正しきも
ていふも
ハリスル
首の音
のまじり
ていふ
ト

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in black ink on aged paper.

一 此二書一好月書子日記
○今書日記
○此二書一好月書子日記
○今書日記
○此二書一好月書子日記
○今書日記
○此二書一好月書子日記
○今書日記

雙下

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in black ink on aged paper.

天鈿女ヒメメの露其胸乳シソナシ柳裳帶ヨシバ於脛下笑噀ヒツツ向立ヒツツ之
坐シタ

一 何傍側 花飽足

一 何傍側 花飽足

一 孟垣ミツノ見ミ 闕ツクリ

一 日向紀ヒノに視其礼屏マシマ成ナリ

一 日向紀ヒノに視其礼屏マシマ成ナリ

一 日向紀ヒノに視其礼屏マシマ成ナリ

一 日向紀ヒノに視其礼屏マシマ成ナリ

一 日向紀ヒノに視其礼屏マシマ成ナリ

一 日向紀ヒノに視其礼屏マシマ成ナリ

何れを
かぞへ
ゆかす

日向紀ヒノに視其礼屏マシマ成ナリ

日向紀ヒノに視其礼屏マシマ成ナリ

日向紀ヒノに視其礼屏マシマ成ナリ

日向紀ヒノに視其礼屏マシマ成ナリ

日向紀ヒノに視其礼屏マシマ成ナリ

日向紀ヒノに視其礼屏マシマ成ナリ

日向紀ヒノに視其礼屏マシマ成ナリ

聖作よ
初自ん
の傍の
大まを
むす
むす
むす
むす
むす

日向紀ヒノに視其礼屏マシマ成ナリ

いづれもわづらひしはち又いせ集はは保式しはるゝらりしはるゝの字をうづつむのちをれてまゐ
くゝりしはるゝのちをりしはるゝのちをりしはるゝのちをりしはるゝのちをりしはるゝのちをりしはるゝ
是伊集集集集也

